

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 206

2021・03・31

桜花 何が不足で ちりいそぐ

——茶——

COVID-19に脅かされる日々が
はやく終わらないかと願う毎日。
時よ速く過ぎよとばかりに、
今年は桜も散り急いでいるようです。
図書館で何の気兼ねもなく本を読んだり
おはなし会に参加したりする日常。
懐かしく、また、待ち遠しい。

○ CONTENTS ○	PAGE
☆ 初めての書面総会—第23回 2020年度会員総会報告	…1
☆ ファンタスティック☆ライブラリー109 実行委員会報告	…3
☆ 間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会 第6回報告	…4
☆ 松坡文庫研究会 月例会休会中の「漢詩講読」袴田潤一	…5
☆ 旧鎌倉図書館の劣化調査報告書が出されました	…6
☆ 図書館友の会全国連絡会の活動から	…7
☆ おはなしひろくせん勉強会報告	…8
☆ 協働事業推進部会報告/ボラ協役員会報告	…9
☆ パートナーシップミーティング報告/グループインタビュー報告	…9
☆ かまくら銀幕上映会のお知らせ/活動日誌	…10
☆ 事務局から	…10

初めての書面総会 —第23回 2020年度会員総会 報告—

今年の活動は年明け間もない1月6日(水)の例会でスタートしました。ですが1月8日には再びCOVID-19による緊急事態宣言が発出されたことから、それ以降の集まりは取りやめとし、2～3名での総会準備作業にとどめました。

そのため今年の総会は集会の形式は取らず書面での議案送付、議決となりました。初めてのことで不手際もありましたが、会員の皆様にはご理解とご協力をいただき、下記の通り全ての議案が無事承認されました。

- 開催日 2021年1月31日(日)
- 開催手順 事前に郵送もしくはEメールにて総会資料を送付
48通の議決書を郵送、FAX、Eメール等で受領
- 議決書内訳 全ての議案を承認：33通、全て委任：15通 合計48通
議案に対する意見はなし
- 事前に送付した資料は以下の9点
① 総会案内 ② 議案1-1資料 活動報告 ③ 議案1-2資料 活動の流れ ④ 議案2資料 会計報告
⑤ 議案3資料 活動計画案 ⑥ 議案4資料 予算案 ⑦ 議案5資料 世話人候補者
⑧ 書面議決書 ⑨ 会則
- 2021年度世話人は阿曾千代子、黒瀬聖子、杉崎敦子、野村和代、古矢宜子、水岡やす子(副代表)、和田安弘(代表)の7名を選出。会計監査は山下すみ子、吉田皓二の2名となりました。(50音順、敬称略)
*代表、副代表については今回は改選を行わず、当面現状の体制で運営します。

※2020年12月末現在 会員数124名

※総会成立要件 (会則) 13-3. 総会は、会員の5分の1以上の出席(委任状も含む)をもって成立します。

13-4. 総会の議決は、出席者(委任状も含む)の3分の2以上をもって決めます。

なお、この度の総会では議長の選任を行わず、事務局で取りまとめを行いました。会員の皆様には事前にご承認いただくべき事項でしたが、事後報告となりますこととお詫びし、ご了承くださいませよう、お願い致します。

前述しましたように約2か月間例会をお休みしEメール等で情報交換をしていましたが、活発な意見交換には至りませんでした。そこで2月24日(水)、議題ごとにメールを作成しそれに返信する形でEメール例会を行いました。意見を文章にするのは難しい部分もあって思いの外時間がかかり、テンポよく話を進めることはできませんでした。当面の課題を整理することができました。

<議決書の送付に伴い、会員の方々からTOTOMOへのコメントや最近お読みになった本、近況などをお知らせいただきましたのでここにご紹介します>

◎お薦め本

『変われ！東京 自由で、ゆるくて、閉じない都市』
隈研吾、清野由美 集英社新書

お二人の対談形式で書かれています。人は本当にひどい目にあった時変わることができる。今、コロナ禍で、人も都市も変わる時がきている。ぜひ！

◎お薦めのカフェ

御成通り THE GOOD GOODIES (ザ グッドグッディーズ)
梶原 POMPON CAKES (ポンポンケーキ) (東夕起子さん)

いつもお世話になります。
コロナ対策をしながら、今年も楽しいことができるといいですね。
(松本陽子さん)

皆様の活動は鎌倉市が推進するSDGsでも最たるものと思います。今後益々の御活躍をお祈りします。
(岩沢博さん)

12月からYouTubeで配信された鎌倉文学館の文学講座「川端康成と美」県立近代美術館元館長の酒井忠康さんのお話の内容に心惹かれ、すぐに敬愛する酒井さんの著書『片隅の美術と文学の話』(求龍堂)『展覧会の挨拶』(生活の友社)と川端秀子さんが書かれた『川端康成とともに』(新潮社)、そして川端康成著の美術論の英訳本『美の存在と発見』(毎日新聞社)計4冊借りました。美術評論家の眼から見た川端康成論はエピソードも多く、楽しく、反対に川端が書いた美術論は難解で手ごわく、充実した読書になりました。

『美の存在と発見』(昭和44年刊)が中央図書館ですぐに見つかった時は嬉しかった!!

(鈴木保美さん)

昨年は「間島夫妻旌徳の会」にも参加させていただき、あたらしく調べてわくわくした体験もさせていただきました。鎌倉市立図書館も使わせていただき、歴史ある図書館をmy libraryとすることが出来て、うれしく思っています。最近では、先に調査した小田原図書館が、同じ神奈川県歴史ある図書館として、交流があったことがわかり、小田原図書館業務報告を鎌倉市立図書館で見つけました。

こんなコロナ禍の状況で、stay homeで本当は、本を読む時間がたくさんあると思いきやなかなか、世の中がざわざわすると落ち着いて読めないものですね。

◎昨年の記憶に残った本

伊東達也著『苦学と立身と図書館 パブリック・ライブラリーと近代日本』 青弓社

薬師院仁志、薬師院はるみ著『公共図書館が消滅する日』 牧野出版 (青木玲子さん)

◎最近読んだ本(前半)

山本一力著『ずんずん!』 中公文庫
瀬尾まいこ著

『図書館の神様』ちくま文庫
『ありがとう、さようなら』角川文庫
『戸村飯店青春100連発』『強運の持ち主』『そして、バトンは渡された』文春文庫

鏑木蓮著『残心』徳間書店
『屈折光』『真友』講談社文庫

原田マハ著『キネマの神様』文春文庫
池井戸潤著『陸王』集英社文庫

若竹千佐子著
『おらおらでひとりいぐも』河出文庫

(S.Y.)

※後半は次号に掲載します。

石田美智子さんからは「新日本婦人の会鎌倉支部 山崎班ニュース」No.57をお送りいただきました。お読みになりたい方は事務局までご連絡ください。

♪♪ファンタスティック☆ライブラリー109実行委員会報告♪♪

(於：中央図書館多目的室)

3月18日(木)14:00~15:30 ファンタスティック☆ライブラリー実行委員会が行われました。4団体7名と図書館員3名の合計10名の参加でした。

今年度は例年と違う形でのファンタスティック☆ライブラリーでしたが、皆さんからの評判も概ね良かったとの報告がありました。ファンタスティック☆ライブラリーを開催するにあたり、各参加団体の展示物の移動や関連書籍・配布物の用意など図書館の方には大変お世話になりました。

展示での開催ではありましたが、5館全館を巡回し、期間も1/28~3/7と一ヶ月強ありました。図書館のホームページでは展示物の画像紹介が掲載され、動画のYouTubeやTwitterの配信も行われました。ホームページアクセス数1月399、2月349回でした。[ホームページ](#)はまだ暫く見ることができます。



中央図書館 続・腰越に生きた女性たち
図書館のF☆L記録年表



深沢図書館 田辺松坡と松坡文庫

来年度のファンタスティック☆ライブラリーについては社会状況がどのようになっているか不明であるが、今年度の開催方法を基準としてプラスαで考えていくのが良いのでは、との意見が出ました。さらに秋に中央図書館の耐震工事が予定されているので期間も考えなければならないことになりました。また新たな参加団体の募集は考えられないかもしれません。以上のことについては次回実行委員会で話し合われることとなりました。



腰越図書館 鎌倉視聴覚協会のあゆみ

3月30日(火)~4月5日(月)地下道ギャラリーで、ファンタスティック☆ライブラリーの展示を再展示しています

TOTOMOからは阿曾(松坡文庫研究会兼務)、杉崎、水岡が参加しました。

次回ファンタスティック☆ライブラリー110実行委員会は、令和3年6月17日(木)14:00~中央図書館多目的室です。(水岡やす子)

【図書館各館からの報告】

- 中央：1階ロビーで見やすかった。
- 大船：カウンターと展示場所は離れていたが、反応は見る事ができた。入り口すぐで展示本を借りる人も多かった。1週間ずつしか展示できなかった。
- 深沢：入口近くの目立つ場所に展示。関連書籍は好評で借りた人も多かった。
- 腰越：1階のロビーと3階の図書館とは離れていたが、行政センターに来た方の目にもふれる事ができた。
- 玉縄：図書館の入口前の壁面に展示。広々とした場所でテーマも良く、多くの人が足を止めて見入っていた。関連書籍を館内に置かざるを得ず、離れていたのが残念。

【会報207号で2020年度ファンタスティック☆ライブラリーを特集します】



玉縄図書館 絵本で旅をしませんか

「間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会」第6回報告

3月3日午後、鎌倉 NPO センターで第6回目となる旌徳の会をもちました。「間島弟彦生誕 150 年」の本年、会として、いつ頃、どのような形で、何ができるか皆で話しました。次回に詳細を検討の予定です。その一環として、夫妻が詠まれた短歌が話題になりました。お二人の歌は次の著作物で読むことができます。



間島弟彦氏（白瀧幾之助画）
『間島弟彦集 上』より

◆『間島弟彦集 上・下』（昭和4年3月21日 弟彦氏1周忌に発行）

◆『間島愛歌集』（昭和28年10月25日 愛子氏喜寿に発行）

以上の歌集は愛子氏が佐佐木信綱氏に選を頼み、身近な方に贈られた私家版です。

◆「心の花」（佐佐木信綱氏主宰の竹柏會^{ちくはくかい}が発行する月刊誌で明治31年創刊）掲載の各号

夫妻の歌を辿ることでお二人の来し方やお人なりにより深くふれることができ、改めてお二人のご人徳に深い敬意を抱きます。旧図書館、国宝館、学校施設、英勝寺山門など、鎌倉に遺して下さった目に見える歴史遺産だけでなく、そのお心持をこそ次の世代に語り継いでいきたいと願わずにはいられません。資料既出の歌より、お住まいのあった由比ガ浜（関東大震災まで本邸）と白水荘（別邸、後に本邸となる）に寄せた歌から数首紹介します。（※○は弟彦氏の歌、●は愛子氏の歌、上・下と数字の組み合わせは『弟彦集』の頁、数字のみは『愛歌集』の頁を示す）



間島愛子氏（白瀧幾之助画）
『間島愛歌集』より

由比が濱 海岸通りに建つ J・コンドル設計の本邸から由比ガ浜へと歩む夫妻の姿が浮かびます。

○庭木戸につづく砂みち松のこみち海まづ光る砂丘の上に（下 p1）

○いきづきてのぼる砂丘まなかひに春の大うみ照りひろごれり（下 p2）

●砂濱に出づるすなはち手をひろげ小鳥なし子らは飛びて行くかも

（p42 由比が濱に孫らと行く）

白水荘 葛西谷滑川沿いの白水荘には、長子道彦氏が眠る十三塔や、移築された英勝寺山門、紀州陀羅尼寺御堂が並び建っていました。弟彦氏はここで最期の日々を過ごしました。

○これやこの命の終こけ蒸せる十三塔にねむる子の魂（下 p46）

○高く低く青葉に浮ぶ陀羅尼寺の御堂の屋根の反のしづけさ（下 p75）

○岩床の浅き流を欄干によりてわが見る青葉の溪を（心の花 27 号 6 月 大正 12 年）

○共に棲みし三十年まりを我が為に全く捧げし我孀^{わがつま}あはれ（心の花 31 号 5 月 昭和 2 年）

○夕かげり李の花はいよいよ白し此花のもつ浄きさぶしみ（心の花 31 号 6 月 昭和 2 年）

●すももの花咲きのさかりを紅白の幕めぐらしてまろうどよびしか（p30 あるじ在世の頃をおもひて）

●なめり川清き岸边に過しこし世はも幸あり君がまもり（心の花 44 号 5 月 p 29 故弟彦の十三周忌に 昭和 15 年）

●二勝院山門のあたり清めつつ亡き君の姿一人しのぶも（心の花 53 号 11 月 昭和 24 年 庭）

●わが一生の數^{かず}のきざはしまた一つこゆるにかたし今は老い來て（p85 昭和 28 年 わたましの事始まりて）

（阿曾千代子）

松坡文庫研究会
月例会休会中の「漢詩講読」

松坡文庫研究会 代表 袴田 潤一



妙本寺 比企能員公一族之墓

昨年後半は順調だった松坡文庫研究会の月例会は、今年に入っての再度の緊急事態宣言の発出により、1月から3月まで再び休止を余儀なくされました。新しい資料の入手が重なっていた時期だけに、会員に披露する機会を持たず残念な思いをしていました。

しかし、だからと言って研究会の活動そのものが休止しているというわけではありません。月例研究会の折の漢詩講読を拡張する形で、電子メール等での漢詩講読を継続しています。

これまで、研究会では田辺松坡の漢詩を少しずつ講読してきました。休会中は、詩の原文を予め示し、そのほぼ10日後に読み下しと語釈を記したものをメールで送付しました。「家庭学習」は会員の自主性に任せており、予習・復習の程度は各自さまざまでしょう。ここしばらくは「題大橋観籟鎌倉十二景」という七言絶句の連作を読んでいます。神奈川師範学校の美術教師で松坡先生とも交流のあった大橋康邦（観籟 1865～卒年不詳）が描いた、鎌倉を代表する十二景（絵画については未詳）のそれぞれに松坡が詩を詠んだものだと思います。鶴岡八幡宮、由比ガ浜、滑川、円覚寺などが詠まれています。

今日はその中から「其八 比企谷」という詩を紹介しましょう。

題大橋観籟鎌倉十二景

其八 比企谷

林壑陰深樹掩天
法華堂外鼓聲傳
幾基苔碣埋幽恨
蘿月松風七百年

大橋観籟の鎌倉十二景に題す

其の八 比企谷

林壑 陰深として 樹 天を掩い
法華堂外 鼓声伝う
幾基の苔碣 幽恨を埋め
蘿月 松風 七百年



田辺松坡「題大橋観籟鎌倉十二景」の一部（『漢詩春秋』）

○比企谷 詩題は比企谷だが、比企ヶ谷にある長興山妙本寺を詠む。○林壑（リンガク）林や谷、また、山林の奥深いところ。○陰深 隠れて人目につかず奥深いさま。○掩（オオウ）覆う、覆い隠す。○法華堂 妙本寺の前身は比企能本（1201～86）の屋敷地に建立された法華堂。○苔碣（タイケツ） 苔碣は苔生した碑（碣は厳密には円形の石碑）。○幽恨 心の中に秘められた人知れぬ恨み、ここでは比企一族の恨みを言う。妙本寺には比企一族の供養塔、一幡の袖塚がある。○蘿月（ラゲツ） 蘿（ツタカズラ 蔓性の植物の総称）を漏れる月明かり、または蘿を照らす月明かり。○松風 松間を渡る風、松籟。○七百年 妙本寺の草創は1260年とされ、この詩が詠まれたのが1935年だから、その間、676年。

通釈は皆様、それぞれ試みて下さい。妙本寺は松坡が主宰した詩社である松社の月例会がしばしば開かれたところで、松坡には妙本寺やその名木である海棠を詠んだ詩が幾つかあります。また、祖師堂に向って右手前には、松坡の漢詩「海棠花下吟」が刻まれた詩碑もあります。これから海棠の季節です。是非とも足を運ばれて咲き誇る海棠を楽しみ、松坡の詩も味わってみてはいかがでしょうか。

旧鎌倉図書館の劣化調査報告書が出されました

現在、骨組みだけの状態にある旧図書館の保存状況調査が日本木材保存協会によって行われ、その結果が昨年11月末に「旧鎌倉図書館木材劣化調査報告書」として出されました。情報公開請求をしてそれを入手しましたので、その内容を紹介します。診断の結果は以下の通りです。

劣化の概況は「建物内部の構造材の多くは、現在も健全性を維持している」が、「外周部の構造材に激しい生物劣化（腐朽、蟻害、甲虫害）が発生している」というもので、とくに外周部の基礎に近い「土台・柱脚において被害が深刻」であり、また屋根の軒先部も同様であると述べています。

診断の方法は、まず視診、打診、触診が行われ、それだけではわからない柱の内部の含水率や傷みなどを様々な機器を使って調査し、劣化のひどい外周部については柱脚部周辺、上部横架材、通し柱上部などに分けて、さらに詳しく調べています。

劣化の概要は予想されたものでしたが、気になったのは報告書の最後の部分「小屋組・屋根の劣化状況」の項です。「現在の屋根は仮設状態にあり…随所から雨漏れが生じている」、その原因は、仮設されたものが「機能を発揮していないため」で、「この雨漏れによって…腐朽劣化が進行中」なので「緊急に、防水処置を施すようお勧めする」としています。また、「現在、雨樋がない」状態だが、「谷屋根」（屋根と屋根がつながって谷になっている部分）が「流水が多いため、降雨のたびに下部の外壁面を濡らす事態を招いている」ので、対策を施すよう助言しています。

この点について、こども支援課に問い合わせたところ、屋根の補修は予算のやりくりで行ったが、雨樋の設置までは無理ということでした。3年近くもスケルトン状態にあったなかで、その間に劣化がさらに進行したことは容易に推測されます。突き出し型の雨樋でいいので緊急に設置するよう要望したいと思います。

会報204号でお伝えしたように、実施設計の修正に伴い構造計算のやり直しが必要になり、設計事務所へ委託して構造設計が進められています。こども支援課によれば、市の職員（公的不動産担当）による実施設計の修正作業も構造設計と連携しながら同時進行で進められているとのこと。今後の予定では、4月以降のなるべく早いうちに実施設計を完成させ、工事業者が入札で決まったら仮契約して議会に諮り、承認を得て工事に入る、工事は17カ月を見込んでおり、2年度にわたる工事期間になるとの話でした。

すでに3月9日の一般会計予算等審査特別委員会で来年度の工事請負費1億731万8千円と工事監理業務委託料341万9千円の予算が承認されています。審議のなかで、来年度予算は全体の35%で、総予算は工事費3億662万5千円、監理費976万8千円になると答弁されています。工事業者が途中で撤退して現在の状態になっているが、今度は大丈夫かという質問に対しては、安易に大丈夫とは言えないが丁寧に業者選考をしていきたいと答えていました。



現在の旧鎌倉図書館

この点は、TOTOMOとしても不安を覚えるところであり、できれば歴史的木造建築物の修復を経験している業者を選定してほしいし、実施設計にしても同様の専門家にチェックを依頼してほしいと思います。ほかに、エレベーターの位置など気になる事項があるので、それらを整理して、市に提出できればと考えています。

(和田安弘)

～図書館友の会全国連絡会の活動から～

「公立図書館の振興と発展を求める要望書」提出と回答について

図書館友の会全国連絡会（図友連）の活動は、2004年の発足当初よりオンラインでのやり取りを主としています。従って、コロナ下においても日頃の活動に特段の変化はありません。しかし本年度は、年に一度だけ対面で行っている総会が通信総会に変更となり、同時期に実施している国への要請活動も延期となりました。

例年に比べると1年近く遅れてしまいましたが、この度当会を含む65団体（会員外13団体）と個人66名（会員外15名）の連名で添付の要望書を提出しました（添付資料①）。送り先は次の部署です。

○文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課青少年教育室 図書館・学校図書館振興室

○総務省大臣官房総務課 政策評価広報課

なお、図友連では、例年、要望先省庁の大臣あるいは副大臣に面談の上要望書を手交し、併せて担当課職員との面談を実施していますが、緊急事態宣言中であることをふまえ本年度は見送りました。また、面談後に衆・参議員会館を訪ね、全国から集った仲間たちが手分けして関連議員にロビー活動を行っていますが、今回はそれも叶わず、文部科学委員会(衆議院)、文教科学委員会(参議院)所属の73議員（大臣、副大臣、政務官を含む）への送付に替えて対応しました。図書館関連団体やメディア等34団体にも同様に郵送でリリースしました。

3月15日、両省庁より回答書が届きました（添付資料②）。

例年、総務省からは回答書を頂いていますが、文科省の文書回答は初めてです。一步前進と言えるのかもしれませんが、その内容には落胆しました。

詳しい分析と対応はこれからの検討になりますが、公立図書館へ指定管理者制度を導入することの諸問題について、これからも図書館を友とする市民の声を直接国へ届けていきたいと思えます。

この度のコロナ禍は、行財政改革の名のもとに行われてきた医療や基礎研究分野の縮小・統廃合のひずみを明らかにし、医師、看護師、保健師など専門職を軽視してきたこの国の実態とその弊害を浮き彫りにしました。

図書館も同じと痛感します。平時のみならず、パンデミックや災害時に公立図書館が果たすべき役割は決して小さくありません。迅速で公平な情報提供など、公立図書館だからこそできる数々の提案を広く共有し、緊急事態に対応できる機器の整備や、情報の収集・提供・保存を専門とする司書職制度の確立に向け、今後もできることから取り組みたいと思えます。 (阿曾千代子)

※添付資料については、[図友連HP](#)をご参照ください。

♪ご案内♪

<TOTOMO ホームページのご案内>
◎以前より懸案事項だった会報のホームページ掲載を、205号から始めました。会報のページの「会報PDF版」をクリックしてご覧ください。
<http://totomo.sakura.ne.jp/kaiho.html>
それ以前の号につきましては執筆者への確認が取れていない為、現在は掲載の予定はありません。

◎ファンタスティック
☆ライブラリー109 参加企画として“おはなしひこうせん”が制作したポスター画像を掲載しました。
ぜひご覧ください。

<http://totomo.sakura.ne.jp/FL/ehontabi.html>





おはなしひこうせん勉強会報告

1月7日に二度目の緊急事態宣言が出て、おはなしひこうせんの勉強会も普段とは違うやり方で行いました。

1月21日は、ファンタスティック☆ライブラリーに展示する各個人が作成したパネルを集め、代表者が玉縄図書館へ届けました。

2月18日と3月18日は、携帯メールでの勉強会を行いました。いつもの勉強会報告はパソコンのメールで多くの方にお送りしていますが、毎回参加しているメンバーにはパソコンを使わない方もいらっしゃるので、携帯メールでのメール交換にしました。2月のテーマは、3.11から今年で10年ということで「東北」でした。震災関連の絵本をはじめ、民話、宮沢賢治の作品などが紹介されました。3月のテーマは、「九州」。2月に引き続き、日本各地をテーマとすることで、各地の昔話や民話、行事など学ぶのによい機会なると思います。

実際の絵本を手にとることや読みあうことができず、物足りなさがありますがコロナ禍で集まれない状況では有効な勉強会になったと思います。今後も工夫しながら、勉強会を続けていく予定です。(杉崎敦子)

協働事業推進部会報告 ー令和2年度 第7回協働事業推進部会議事録よりー

(2月18日 於：NPOセンター鎌倉)

日時：2月18日(木) 15:00～16:30 NPOセンター鎌倉2階

出席者：5名、オブザーバー1名、地域のつながり課1名(計7名)

報告 地域のつながり課 担当より

協働に関する条例の制定とその指針が示されたことを受けて実施された職員の協働事業研修の状況など、入庁3年目の若手職員30余名対象に行ったアンケート結果の報告があった。

- ・市民団体等との協働することの重要性については97.1%が理解できたと回答。
- ・協働事業を自分の部門でも実施してみたいか?については、64.7%がその意義をみとめて実施に前向きな意見を述べている。
- ・時節柄この研修はオンラインで行われたが、それについては85.3%がよかったと回答。

議題 令和3年度の活動方針について

- 12月22日に横浜市市民協働推進センターを視察した件について発言があった。スケールの違いがあり、単純に置き換えることはできないが参考にできる点はある。同センターは市庁舎内に設けられ、コーディネーター数名が協働の実現に向けた支援活動を行っている。
- 職員研修の受け入れ団体選定にあたって、前もって研修の意図を伝えたりヒアリングなどを行う必要性があることを確認した。
- 来年度の協働事業はCOVID-19の関係で実施を1年延ばした3事業が予定されているが、実施に向けて環境変化の影響がないかヒアリングを行い地域のつながり課へ報告することとした。

ボランティア連絡協議会役員会報告

3月11日(木)、2か月振りに役員会を行い、総会に向けて話し合いました。

今年度は委員会など多くの集まりが中止になりましたが、事業報告には中止になったことや書面で確認したことなども記載することになりました。来年度の事業計画は流動的ですが、可能な範囲で記載しています。4月の委員会と5月の総会は書面で行うこととし、その準備についても相談しました。

(黒瀬聖子)

TOTOMO

COMING NEXT ! 事務局からのお知らせ



コロナ禍での二度目の春がやってきました。人々の動きは停滞していますが、自然は変わりなく、花を咲かせ鳥の歌声を届けてくれています。
様々な制約の中、変わりなく開館して下さる図書館の皆さまに感謝です！

おはなしひろくせん勉強会

日 時：4月15日（木）10時～12時 場 所：福祉センターにて
テーマ：今年度は、2月に東北、3月に九州とテーマを日本各地にしています。4月は、中国地方です。おすすめの絵本や紙芝居などをご紹介します。
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読書会

日 時：5月28日（金）11時～12時半 場 所：NPOセンター鎌倉にて
テーマ本：石井桃子著『ノンちゃん雲に乗る』（福音館書店）多和田葉子著『言葉と歩く日記』（岩波新書）です。
お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時：4月7日（水）13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉にて
お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX 0467-45-5731）まで。

※上記の各会については、COVID-19感染の状況により、変更になる可能性があります。
参加される方はTOTOMOのHPやFBでご確認いただくか、お問い合わせください。

★図書館友の会全国連絡会

会員アンケートが実施され、39団体25個人から提出がありました。現在、担当者による編集作業が行われています。総会に向けた準備も始まっています。お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。

編集後記 * * * * *

☆緊急事態宣言が出ていたこの冬、心も体も縮こまっていました。
春の風の中、深呼吸して、背伸びをしましょうか。
紙版の会報は、前号（205号）も一緒にお届けします。（A.S）
☆昨年春に初めて経験した緊急事態宣言。今年もまたあの我慢の日々が訪れるとは。会報編集もいつものようにはいきませんでした。ご希望の方にはデジタル版でお読みいただくことができたのは救いでした。
今号では、3月7日に終了したF☆Lの速報を掲載しました。
詳しくは次号でお伝えします。お楽しみに！（M.S）



妙本寺の海棠

題字・巻末カット：小島寅雄 2021年3月31日発行
図書館とともだち・鎌倉（代表：和田安弘）編集：阿曾・黒瀬・目黒・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545
HP：<http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail：toshokantomodachi@gmail.com

